

病原体別対策：

# 小児ウイルス感染症

## 1. はじめに

この項に挙げた麻疹、水痘、播種性帯状疱疹、風疹、流行性耳下腺炎(ムンプス)は、伝染性の強いウイルスである。感染者発生時は、迅速に適切な感染対策を実施するとともに、速やかに ICT、または感染管理推進室に報告する。また病院感染防止の上では、感染源、伝播経路及び感受性者への対策が重要である。特に感受性への対策として、水痘、麻疹、風疹、ムンプスに曝露するリスクの高い職員(小児科や免疫不全患者が多い病棟勤務者)はウイルス抗体価検査を行い、陰性の場合は禁忌者を除きワクチンを接種することを推奨する。

【表 1. ウイルス感染症の感染経路・伝染期間・曝露後の処置】

疾患名	感染経路	潜伏期間 (日)	伝染期間 (発病日前後の日)	曝露後の処置	
				ワクチン	免疫グロブリン
水痘	空気・飛沫・接触	10-21	発病前 2 日 ～ 痂皮化するまで	曝露後 72 時間以内 なら有効	有効だが推奨されない
麻疹	空気・飛沫	5-21	発疹前 5 日 ～ 後 4 日	曝露後 72 時間以内なら有効	有効だが推奨されない
風疹	飛沫	12-25	発疹前 7 日 ～ 後 7 日	無効	無効
ムンプス	飛沫	12-25	耳下腺炎 前 7 日～後 9 日	無効	無効
伝染性 紅斑	飛沫	14-21	発疹前 14 日頃	なし	なし
インフルエンザ	飛沫	1-3	有症状時	なし	なし
帯状疱疹 播種性帯状疱疹	接触 空気・接触	10-21	有症状時	曝露後 72 時間以内なら有効	有効だが推奨されない
ノロウイルス	汚染食品の摂取 糞口感染 ウイルス混入の エアロゾル吸入	1-2 平均 36 時間	症状消失 48 時間 または 便にウイルスが排泄 される 2 週間	なし	なし

## 2. 各感染症の特徴・感染経路

【表 2: 各感染症の特徴・症状・感染経路】

	水痘・带状疱疹	麻疹	風疹	ムンプス	伝染性紅斑
特徴	水痘・带状疱疹ウイルスによる感染症である。潜伏期は 10～21 日、多くは 14～16 日である。带状疱疹は水痘治癒後に知覚神経節に潜伏感染したウイルスによって成人以降に発症する。	麻疹ウイルスによって起こる急性熱性発疹性疾患である。潜伏期は 5～2 日、多くは 9～11 日である。	風疹ウイルスによって起こる急性熱性発疹性疾患である。潜伏期は 12～25 日、多くは 14～16 日である。妊娠初期に感染すると高頻度に胎児に先天性風疹症候群を起こす。	ムンプスウイルス感染による耳下腺の腫脹を特徴とする感染症である。好発年齢は乳児や学童である。潜伏期は 12～25 日、多くは 16～18 日である。	パルボウイルス B 19 によって起こる紅斑を主徴とする小児の発疹性疾患である。小学校で流行することが多く、成人が感染しても重症にはならない。妊婦が感染すると胎児水腫が起こることもある。
症状	水痘は発熱と発疹は紅斑 水疱 痂皮と経過する。 带状疱疹は神経支配領域に一致した発疹と知覚異常、疼痛、掻痒を呈する。	カタル期：発熱、咳、鼻汁、結膜充血、コプリック斑 発疹期：一度解熱後、再度発熱し発疹が出現 発疹消退期	顔 体幹 全身に広がる淡紅色の発疹、頸部・耳介後部のリンパ節腫脹、発熱。	片側ないし両側の有痛性の耳下腺の腫脹、発熱。	両頬の紅斑、四肢の網目状紅斑。
感染経路	水痘患者の気道粘膜や水疱内で増殖したウイルスが空気感染、または接触感染によって伝播される。また免疫不全患者における播種性带状疱疹では、気道粘膜でもウイルスが増殖するため、空気感染もある。	ウイルスは鼻咽頭から排出され、感染力が強く、飛沫感染と空気感染の両方である。	ウイルスは患者の鼻咽頭より排出され飛沫感染である。感染力は麻疹や水痘ほど強くない。	ウイルスは唾液より排出され、飛沫感染を起こす	飛沫感染。感染力は強くない。
感染リスクのある期間	発疹出現期間 2 日前から出現後 5 日まで感染性を有する。	発疹出現前 5 日から発疹出現後 3～4 日まで感染性を有する。免疫不全患者はさらに長期間ウイルスを排泄し続ける。	発疹出現の 7 日前から発疹出現後 7 日まで感染性を有する。	耳下腺炎の発症前 6～7 日より発症後 9 日まで感染性を有する。	臨床症状が出現したときには感染性はない。
診断治療	臨床診断 アシクロビル投与	臨床診断 対症療法	臨床診断 対症療法	臨床診断、血清アミラーゼの上昇 抗体検査 対症療法	臨床診断 特別な治療を必要としない

### 3. 感染防止対策

【表 3: 感染防止対策】

感染症 対策	水痘 帯状疱疹	麻疹	風疹	ムンプス	伝染性紅斑
感染患者への初期対応	可能な限り退院とする	可能な限り退院とする	可能な限り退院とする	可能な限り退院とする	特になし
感染職員の就業停止期間	水泡が痂皮化するまで	発疹出現後 7 日間	発疹出現後 5 日間	耳下腺炎後 9 日間	特になし
感染経路別対策	空気・接触予防策 帯状疱疹は接触予防策のみ	空気・飛沫予防策	飛沫予防策	飛沫予防策	有効な予報策なし
患者配置	トイレのある個室隔離。ドア閉鎖 ただし帯状疱疹は播種性の場合のみ	トイレのある個室隔離 ドア閉鎖	個室隔離	個室隔離	特に規制なし
担当職員の配置	抗体を有する職員を配置	抗体を有する職員を配置	抗体を有する職員を配置	抗体を有する職員を配置	特に規制なし
防護具					
マスク	抗体陰性者 入室時 N95 マスク装着 (帯状疱疹は播種性のみ)	抗体陰性者 入室時 N95 マスク装着	抗体陰性者 1m 以内に接近する時 サージカルマスク	抗体陰性者 1m 以内に接近する時 サージカルマスク	特に規制なし
手袋	患者・湿性生体物質接触時	標準予防策で対応	標準予防策で対応	標準予防策で対応	標準予防策で対応
エプロン ガウン	標準予防策で対応	標準予防策で対応	標準予防策で対応	標準予防策で対応	標準予防策で対応
個室隔離の期間	痂皮形成完了まで 隔離解除以後はすべて標準予防策で対応	発疹出現後 7 日間 隔離解除以後はすべて標準予防策で対応	発疹出現後 7 日間 隔離解除以後はすべて標準予防策で対応	発症後 9 日間 隔離解除以後はすべて標準予防策で対応	特に規制なし
手洗い	アルコール製剤有効	アルコール製剤有効	アルコール製剤有効	アルコール製剤有効	アルコール製剤有効
環境対策	通常の清掃 作業員の防護具は職員に準じる	通常の清掃 作業員の防護具は職員に準じる	通常の清掃 作業員の防護具は職員に準じる	通常の清掃 作業員の防護具は職員に準じる	通常の清掃
汚染 リネン	湿性生体物質で汚染されたリネンはビニール袋に密閉し、感と明記 それ以外のものは通常の取り扱い	通常の取り扱い	通常の取り扱い	通常の取り扱い	通常の取り扱い
鼻汁、唾液などの処理	感染性のある期間は、ビニール袋にティッシュなどを密閉し、感染性廃棄物として廃棄	感染性のある期間は、ビニール袋にティッシュなどを密閉し、感染性廃棄物として廃棄	感染性のある期間は、ビニール袋にティッシュなどを密閉し、感染性廃棄物として廃棄	感染性のある期間は、ビニール袋にティッシュなどを密閉し、感染性廃棄物として廃棄	通常の取り扱い

【表 4: 感染防止対策】

感染症 対策	水痘 帯状疱疹	麻疹	風疹	ムンプス	伝染性紅斑
接職者の対策 抗体陰性者の リストアップ	罹患歴・予防接 種歴を調査す る。 抗体陰性者のリス ト作成 (発端者の発病 2 日前から接触し た職員・患者な ど)	罹患歴・予防接 種歴を調査す る。 抗体陰性者のリス ト作成 (発端者の発疹出 現 5 日前から接 触した職員・患 者など)	罹患歴・予防接 種歴を調査す る。 抗体陰性者のリス ト作成 (発端者の発疹出 現 7 日前から接 触した職員・患 者など)	罹患歴・予防接 種歴を調査す る。 抗体陰性者のリス ト作成 (発端者の耳下腺 炎出現 7 日前か ら接触した職 員・患者など)	特になし
曝露後の予防  ワクチン接種	抗体陰性者は 曝露後 72 時間 以内の接種は 有効 ワクチン禁忌 妊娠中、免疫不 全など	抗体陰性者は 曝露後 72 時間 以内の接種は 有効 ワクチン禁忌 妊娠中、免疫不 全など	無効	無効	特になし
二次感染者の モニタリング	対象 リストアップされ た抗体陰性職 員・患者 (ウイルス感染症 接職者リスト様 式 1・2)  期間 ケースに応じて、 感染管理推進 室が決定する 二次感染者が 発生したら感染 管理推進室に 報告する	対象 リストアップされ た抗体陰性職 員・患者 (ウイルス感染症 接職者リスト様 式 1・2)  期間 ケースに応じて、 感染管理推進 室が決定する 二次感染者が 発生したら感染 管理推進室に 報告する	対象 リストアップされ た抗体陰性職 員・患者 (ウイルス感染症 接職者リスト様 式 1・2)  期間 ケースに応じて、 感染管理推進 室が決定する 二次感染者が 発生したら感染 管理推進室に 報告する	対象 リストアップされ た抗体陰性職 員・患者 (ウイルス感染症 接職者リスト様 式 1・2)  期間 ケースに応じて、 感染管理推進 室が決定する 二次感染者が 発生したら感染 管理推進室に 報告する	特になし

ウイルス感染症接触者リスト 職員用

患者名		感染症名			発症日		年月日	
職員名	職員コード	年齢(歳)	罹患歴	ワクチン接種歴	接触期間	接触時間合計	接触の程度 複数にチェック可	N95マスク 装着の有無
			あり・なし・不明	あり・なし・不明	月 日 ~ 月 日	( )分 ( ) 時間	病室に入り診察・検温など 病室で清拭や処置などの 濃厚接触 会話程度 その他( )	あり・なし
			あり・なし・不明	あり・なし・不明	月 日 ~ 月 日	( )分 ( ) 時間	病室に入り診察・検温など 病室で清拭や処置などの 濃厚接触 会話程度 その他( )	あり・なし
			あり・なし・不明	あり・なし・不明	月 日 ~ 月 日	( )分 ( ) 時間	病室に入り診察・検温など 病室で清拭や処置などの 濃厚接触 会話程度 その他( )	あり・なし
			あり・なし・不明	あり・なし・不明	月 日 ~ 月 日	( )分 ( ) 時間	病室に入り診察・検温など 病室で清拭や処置などの 濃厚接触 会話程度 その他( )	あり・なし
			あり・なし・不明	あり・なし・不明	月 日 ~ 月 日	( )分 ( ) 時間	病室に入り診察・検温など 病室で清拭や処置などの 濃厚接触 会話程度 その他( )	あり・なし

ウイルス感染症接触者リスト 患者用

冊式 2

患者名		感染症名				発症日		年月日	
患者氏名	ID	年齢(歳)	病名	同室の有無	罹患歴	ワクチン接種歴	接触期間	接触時間合計	
				あり・なし	あり・なし・不明	あり・なし・不明	月 日 ~ 月 日	( )分 ( )時間	
				あり・なし	あり・なし・不明	あり・なし・不明	月 日 ~ 月 日	( )分 ( )時間	
				あり・なし	あり・なし・不明	あり・なし・不明	月 日 ~ 月 日	( )分 ( )時間	
				あり・なし	あり・なし・不明	あり・なし・不明	月 日 ~ 月 日	( )分 ( )時間	
				あり・なし	あり・なし・不明	あり・なし・不明	月 日 ~ 月 日	( )分 ( )時間	